

● 令和2年度 経営発達支援計画事業 事業報告・評価

平成26年6月に小規模支援法が改正され、小規模事業者の持続的発展を支援するために商工会及び商工会議所が、小規模事業者の課題に対して事業計画の作成や着実な事業の実施を支援すると共に、地域活性化につながる事業を策定し事業者に寄り添って支援する体制を整えた「経営発達支援計画」を国が認定する制度が導入され、当所では【産業間連携による地域資源の活用】、【人口減少による事業所数の減少・労働力不足による地域力の低下】、【「個」の競争力ではなく「地域」面としての競争力を高める地域間連携の推進】の地域の課題を抽出。

5つの目標方針①小規模事業者の経営力・競争力強化に向けた事業計画作成支援と企業・人材の育成、②小規模事業者数の減少防止に向けた事業承継・新規創業支援、③人口減少に向けた小規模事業者の労働力確保事業の推進、④地域資源の活用と観光の推進による交流人口の拡大、⑤支援機関の連携強化と伴走型支援体制の強化 に基づき「経営発達支援計画」を策定、関係機関と連携し、令和2年3月16日に経済産業大臣から2期目となる事業認定を受け、地域中小企業・小規模事業者の方々に対する伴走型支援を実施。

1. 地域の経済動向調査に関する事 【項目判定B】

地域内の景気動向・業界動向の実態を迅速に把握し課題を抽出し経営改善支援（経営分析40件、事業計画策定事業者24件）に繋げる。経営指導員による巡回訪問を実施し個別課題を把握する。

調査事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
北見市における景気動向調査	4回	4回	4回	A	4回
新規学卒者予定初任給調査	1回	1回	1回	A	1回
消費増税影響調査	1回	—	—	—	—
中小企業振興委員連絡会議	1回	3回	1回	C	3回
金融懇談会	0回（他個別ヒアリング実施）	—	—	—	—

2. 経営状況の分析に関する事 【項目判定A】

各種セミナーの開催により支援を必要とする小規模事業者の掘り起しを行うと共に経営指導員による巡回により経営状況を個別に把握し、経営改善支援（経営分析件数：40件）に繋げる。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
巡回訪問	918件	—	573件	—	—
創業セミナーの開催	6回	6回	6回	A	6回
各種セミナーの開催	25回	16回	14回	B	16回
経営分析件数	47件	40件	117件	A	40件
専門家相談件数	46件	40件	76件	A	40件

3. 事業計画策定支援に関する事 【項目判定A】

経営指導員による巡回、地域の経済動向調査、経営状況の分析を活用し数字・データに基づく事業計画策定支援（事業計画策定事業者：24社）を実施。創業支援では新規創業計画作成支援（支援者数：20人）を行う。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
巡回訪問	918件	—	573	—	—
事業計画セミナー・相談会の開催	1回	2回	0回（コロナ禍により中止）	D	2回
事業計画策定事業者数	18社	24社	97社	A	24社

経営革新セミナーの開催	1回	1回	0回(コロナ禍により中止)	D	—
創業セミナーの開催	6回	6回	6回	A	6回
創業支援者数	25人	20人	16人	B	20人

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること 【項目判定A】

経営指導員による巡回指導を定期的に行い、事業計画を策定した事業者が着実に計画を推進できるよう事業者に寄り添った伴走型支援を行う。また、創業では創業者間の情報交換会を開催し、創業時における課題・悩み等の共有と解決、仲間づくりを図り、開業後の事業存続率60%以上を目指す。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
巡回訪問	918件	—	573件	—	—
創業支援者数	25人	20人	16人	B	20人
事業計画策定事業者数	18社	24社	97社	A	24社
創業者間情報交換会の開催	2回	2回	0回(コロナ禍により中止)	D	2回
第2創業(経営革新)支援者数	29社	—	—	—	—
事業計画実施のフォローアップ 件数	46件 156回	44件	118件 461回	A	44件

5. 需要動向調査、新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 【項目判定C】

地域内外における各種展示会・商談会への出展を促し、「バイヤー・来場者の生の声」を収集するなどし、自社商品の認知度・課題を把握すると共に市場や競合を調査する。

食関連では、まちづくり会社やアンテナショップを活用しテスト販売支援等の機会を活かし需要動向調査を行う。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
展示会・商談会の開催	1回 (北見スイーツフェア)	開催検討	1回 (北見スイーツフェア)	A	開催検討
(卸・小売業)、(工業・IT)等の展示会参加回数	4回	4回	1回	C	4回
(卸・小売業)、(工業・IT)等の展示会出展支援者数	18社	14社	3社	C	14社
展示会におけるアンケートの実施	2回	2回	1回	B	2回
ITリテラシー等セミナーの開催	1回	2回	1回	A	1回

6. 地域経済の活性化に資する取組 【項目判定C】

関係機関との連携による経営支援並びに地域活性化に向けた取組についての情報共有を図ると共に事業の検討を行う。食イベント・交流人口拡大イベントの開催。中心市街地の活性化に向けた空き店舗対策事業の実施。若年者の雇用機会の確保と地域間連携による産業振興を推進する。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
検討会議の開催(融合センター事務局会議・街コン実行委員会)	14回	12回	12回	B	14回
地産地消フェスタ	1回	1回	0回(コロナ禍により中止)	D	1回

厳寒の焼肉まつり	1回	1回	0回（コロナ禍により中止）	D	1回
北見ぼんちまつり	1回	1回	0回（コロナ禍により中止）	D	1回
きたみd e街コン	1回	1回	0回（コロナ禍により中止）	D	1回
きたみd e婚カツ	2回	2回	1回	C	2回
北見工業大学生に対する企業説明会	1回	1回	1回	A	1回
道内大学生に対する企業説明会	1回	—	0回（コロナ禍により中止）	D	—
U・Iターン相談会	1回	—	0回（コロナ禍により中止）	D	—
高校生・専門学校生・大学生の地元企業見学会	1回 ジョブキタと連携	1回	0回（コロナ禍により中止）	D	1回
まちなかSHOW10	実施	継続実施	実施	A	継続実施
オホーツク地域6会議所包括連携	企業説明会 3回、 大学生及び教員との 意見交換会1回	事業実施検討	企業説明会 1回、 大学生及び教員との 意見交換会0回	C	事業検討

7. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事 【項目判定D】

連携機関との懇談会の開催、金融機関との金融懇談会の開催、オホーツク商工会議所経営指導員連絡連絡協議会の開催により情報共有を図る。

事業等	元年度実績	2年度目標	2年度実績	判定	3年度目標
金融懇談会の開催	0回	—	—	—	—
オホーツク商工会議所経営指導員 連絡連絡協議会の開催	3回	3回	0回（コロナ禍により中止）	D	3回

8. 経営指導員の支援能力の向上の取組

日本商工会議所・北海道商工会議所連合会主催及び中小企業大学校における「支援機関職員研修」等への参加による支援能力の向上を図る。

研 修	2年度参加者
B C P・事業継続力強化支援の進め方	2名
飲食業支援の進め方	1名
人事労務管理支援の進め方	1名
事業承継・廃業支援の進め方	1名
経営安定特別相談室道東地区連絡協議会	1名

9. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

若手職員に対するベテラン経営指導員とのチーム体制による支援体制の構築を図る。

【判定基準】

- A・・・目標を達成することができた（100%以上）
- B・・・目標を概ね達成できた（80%～99%）
- C・・・目標を半分程度しか達成することができなかった（30%～79%）
- D・・・目標をほとんど達成することができなかった（30%未満）

【評価にあたっての注意事項】

2期計画からは、2名（後藤達哉、竹中秀之）の法定経営指導員が事業推進の中心となり、事業計画策定、フォローアップを行うことになっている。その様な中、今般のコロナ禍により商工会議所への相談件数等も伸長しており、正確で迅速な情報の提供と事業者に寄り添った継続的な支援が必要となることから、会議所全体で取り組んでいる。

令和2年度事業実施前に挙げられた改善点（昨年の評価委員会で指摘事項）の進捗状況について

①職員が減員されている状況で一部目標数値が低いものもあるが、ほぼ目標は達成されており頑張ってもらいたい。そうした中、今後の経営発達支援計画策定にあたり職員自身のレベルアップも求められるであろうが、マンパワー的にも厳しくはないか。北見市としても財政的支援の増額を行っているが、現状はどうか。

⇒職員一人当たりの負担は大きいですが、財政計画の基づき職務分担の見直しをすすめ新たな人材確保にも努め現状を乗り切っていく。（令和3年4月より新規採用で1名増員）。

②事業性の評価について、BやCがあるが、専門家相談等による経営分析件数等の取り扱いについて再確認し、件数に含めても良いのではないかと。セミナーについては、この評価における件数としては充分クリアーしているが、セミナーは地域全体で見ると年間の本数がとても多く、参加者はセミナー疲れをしているので、地域全体として連携すべきでは。また、営業中の時間を使って参加している企業も多いので、内容や開催時間についても充分検討してもらいたい。専門家相談等について、特に道内企業の実態について知見の高い道内の専門家を選出し依頼すべきでは。

⇒専門家の選定は、コロナ禍の影響も勘案しつつ、道内近隣の講師を選出することを念頭に企画を行った。

③展示会への出展支援について、小規模事業者においては域外に対する支援より、当地に呼び込む、来てもらう取組みが重要。まずは、域内で売上につながる企業を育てるためのシチュエーション作りをコーディネートしていくのがいいと思う

⇒域内における販路拡大を希望する事業所を支援する一環として、パラゴでのテスト販売出展支援を中心に充実させていく。

【次年度に向けての課題と取組】

2期計画では、2名の法定経営指導員を中心に計画策定しているが、令和3年度より1名の法定経営指導員が減となることから目標設定数値の考え方等事業推進について検討すべき点がある。また、コロナ禍により接触機会の削減等も考慮しながらITの活用推進を行い、『伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金』の活用と共に連携機関との情報共有等を強化し、以下の点を重点に小規模事業者に対する伴走型支援を強化していく事とする。

① コロナ禍の影響もあり相談件数が大幅に増え経営分析件数が伸長しているが、令和3年度も法定経営指導員を中心に、各種セミナー受講者、金融相談事業者など業務を通じて小規模事業者の掘り起こしを行い、より丁寧かつ適切な分析を行い実績を重ねていく。

② 事業計画策定支援にあたり、国等が提供するビックデータを活用することでの確かな地域経済動向分析を行うことが可能となることから、参加者のアウトカムの目標設定を行的に管理していく。

③ 経営分析件数が増加したことにより事業計画策定後のフォローアップ件数も大幅に伸びたが、令和3年度はさらにきめ細かくフォローアップを行い、策定した計画に沿った事業の進捗状況を確認し支援していく。

④ 展示会・商談会出展支援事業者についてコロナ禍ではあるが、これまで出展した事業所も含めより多くの小規模事業者に出展を促すと共に、出展事業者のアウトカムの目標設定を行い、出展効果を高めていくこととする。併せて、ネット販売等に対する取組み支援を行っていく。

⑤ 本計画を推進するうえで、北見市との連携を強固にしながら小規模事業者への伴走型支援を実施する。